

の排出削減に寄与する雑草制御手段などの気温上昇を回避する技術開発と併せて、植物防疫の関連分野との連携の下に気候変動に対応した雑草科学の展開をはかる必要がある。

引用文献

- 合田勇太郎 2004. 『北海道植物誌—北海道植物分布記録保存集—』, 中西出版, pp.333, 343.
- 濱村謙史朗 2016. 水稲除草剤試験からみたノビエの葉齢進展の変化, 植調 49(10), 319-320.
- 環境省 2014. 『IPCC 第5次評価報告書の概要—第1作業部会(自然科学的根拠)—』, http://www.env.go.jp/earth/ipcc/5th/pdf/ar5_wgl_overview_presentation.pdf (2021年2月9日アクセス確認)
- 笠原安夫 1968. 『日本雑草図説』, 養賢堂, pp.1-10.
- 笠原安夫 1982. 出土種子からみた縄文・弥生期の稲作, 歴史公論 74 (1), 78-89.
- 嶺田拓也 2015. 荒川中流域の埼玉県川島町・桶川市におけるヒメホテイアオイ (*Heteranthera reniformis* Ruiz et Pavon)

- の定着, 雑草研究 60(1), 9-12.
- 嶺田拓也・芝池博之 2019. 水田に侵入したナガエツルノゲイトウの防除体系の検討, 日本雑草学会第58回大会講演要旨集, 37.
- 森田弘彦 1996. 九州地方に発生したコヒメビエの小穂と穂の形態と低温での種子の死亡条件から推定した定着不可能地点. 雑草研究 41(2), 90-97.
- 森田弘彦 1999a. 温暖化と外来雑草の定着, 『河野昭一・井村治編 環境変動と生物集団』. 海游社, pp.109-119.
- 森田弘彦 1999b. 1時間気温値の加重型有効積算気温を用いた野生ヒエとイヌホタルイの葉齢進展, 雑草研究 44(3), 218-227.
- 森田弘彦 2004. 発生生態の解明と実用的識別法に基づくイネ科水田雑草の制御戦略に関する研究, 九州農研報告 44, 1-53.
- 森田弘彦ら 2014. 秋田県由利地域振興局管内の湛水直播水田におけるタイヌビエおよびイヌビエの葉齢進展. 雑草研究 59(3), 175-179.
- 森田弘彦 2016. 雑草ヒエの葉齢推定指標としての積算有効温度, 植調 49(10), 310-318.
- 森田弘彦 2017. 湛水土中直播水田における雑草ヒエの重要性と葉齢進展の年次変動の

- 試算. 水稲直播研究会会誌 40, 53-60.
- 森田弘彦 2019. 雑草のよもやま 15 水田の一年生雑草アゼガヤの東進—東日本での目撃情報—. 植調 52(11), 694-695.
- 森田弘彦 2020. 雑草のよもやま 22 水田雑草の「ヒメミソハギ類」に加える, 古参の帰化種シマミソハギ. 植調 54(9), 262-263.
- 守田和弘 2008. 富山県における水田雑草防除の現状と問題. 植調 42(9), 361-365.
- 清野 豁 1999. 環境変動と農林業生態系, 『河野昭一・井村治編 環境変動と生物集団』. 海游舎, pp.1-16.
- 住吉 正・保田謙太郎 2009. 九州地域の水田地帯における2006~2007年のコヒメビエの分布状況. 雑草研究 54(2), 96-98.
- 田中秀一・後藤栄治 2020. 福岡県におけるナガボノウルシの新産地. 植物地理・分類研究 68(2), 147-149.
- 植村修二 2012. 帰化植物とつきあうには何が大事なのか—特に近畿地方における帰化植物の分布の動態, 現状と関連して—. 雑草研究 57(2), 36-45.

田畑の草種

長実雑芥子・長実雑罌粟 (ナガミヒナゲシ)

ケシ科ケシ属の一年草または越年草。北海道南部以南の、畑地、牧草地、樹園地、荒地、路傍から都市部のコンクリートの隙間まで、温暖で日当たりのいい、乾いた肥沃地で生育する。背丈は肥沃度によって異なり、15cm程度から60cm以上にも。花色は朱赤色、花弁は4枚。果実は2cmほどの円柱状で、先端に7~9本の放射状の柱頭が残って蓋になり、熟すとそのすぐ下に窓が開きその隙間から種子を散布する。

春から初夏にかけて、公園や畑、路傍やコンクリートの隙間などに赤から朱色のポピーの花が咲き誇る。公園や花壇などのポピーはヒナゲシ、路傍のポピーはナガミヒナゲシ。前者は江戸時代に観賞用として持ち込まれ、後者は輸入穀物などに混じって日本に入り込んできたとされ1960年代に東京で確認された。

東京で最初に確認されてからの広がりは速かった。ナガミヒナゲシはヒナゲシより少し小ぶり、花色も赤というより朱赤色から橙色ではあるが、見た目は可憐なヒナゲシである。近所

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

に住む園芸好きの女性たちが「まあ、可愛い」とばかりに種子を持ち帰ったであろうことは想像に難くない。そうして居場所を確保したナガミヒナゲシは隣近所をはじめ次々とテリトリーを広げていった。種子が「芥子粒」のごとく小さい上に表面が凸凹していて車のタイヤなどに引付きやすく、車に運ばれて全国へと広がっていったとされる。その結果、20年後の1980年には関東以西、50年後の2010年には北海道南部以南の全国にまで広がった。

そんなナガミヒナゲシを詠った歌人がいる。2009年に短歌研究新人賞を受けたという「やすたけまり」氏の歌から3首。

ある年の数字がならば『ナガミヒナゲシ 発見』と検索すれば
六月の信号待ちのトラックの濡れたタイヤにはりつく未来

ちいさくてかるいからだはきづかれずぎずつけられず運ばれてゆく
コロナ禍の中で今年も春が巡ってきた。我が家のナガミヒナゲシのロゼットも冬を越した。間もなく花茎を立ち上げてくるはずである。